

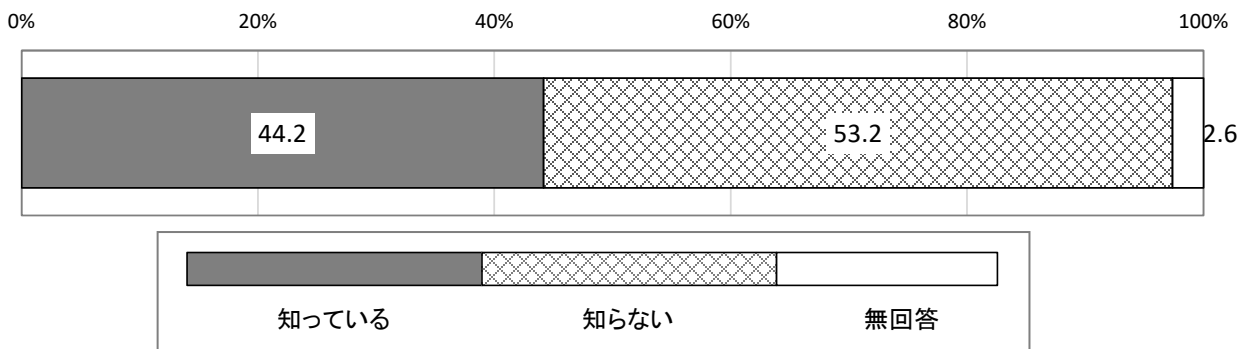
公共サインについて

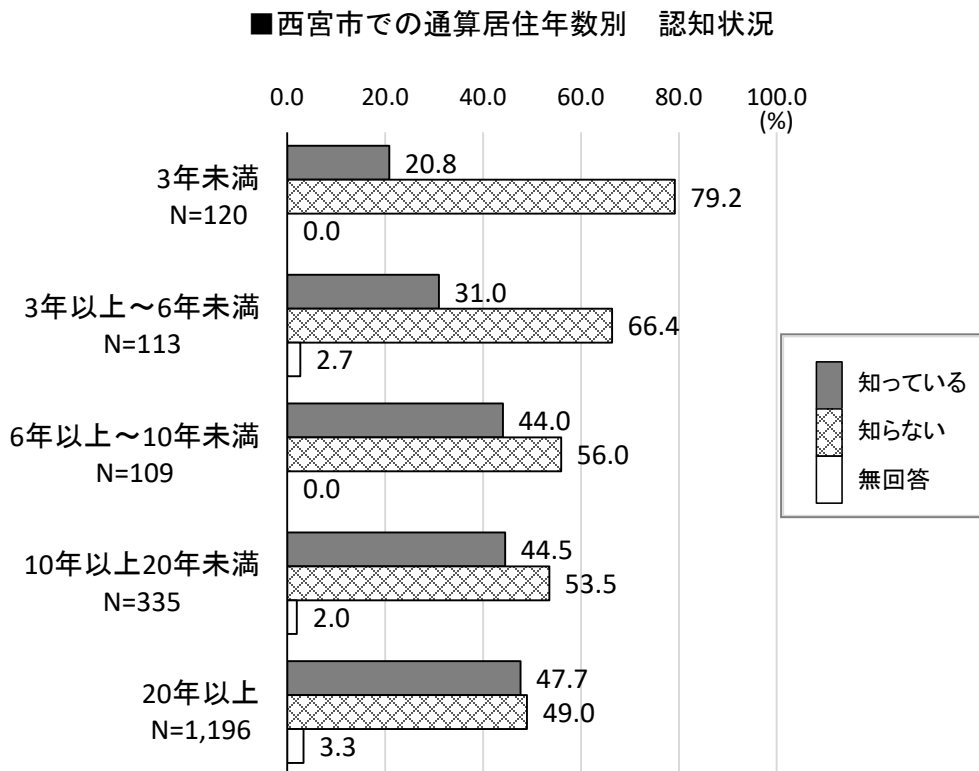
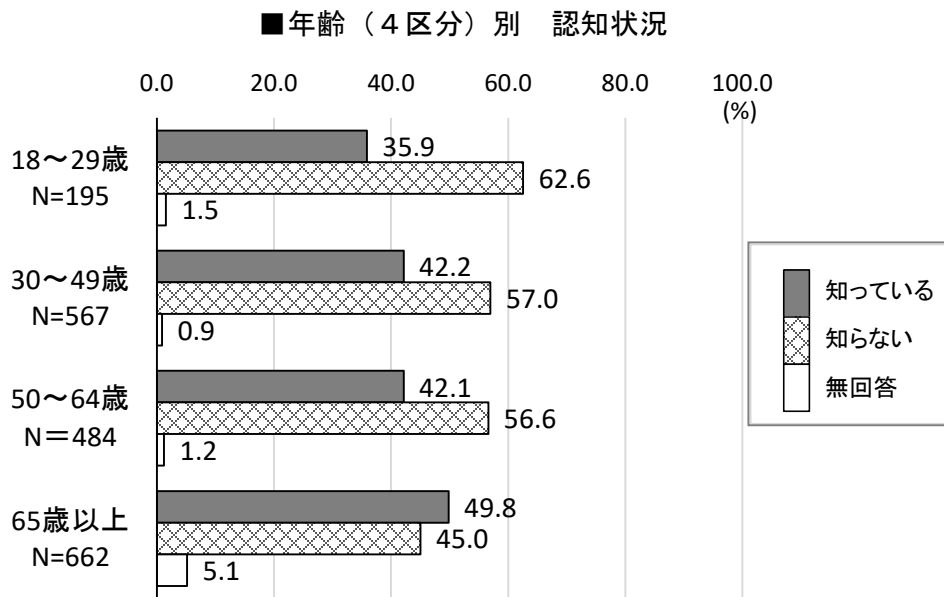
市内のさまざまな公共サイン（市が掲出する看板類）の中には「情報をわかりやすく伝える」という本来の役割を果たしていないものや、死角になるなど安全性を損ねているものがあり、美観にも影響を与えています。そこで、西宮市では、公共サインの適正化に取り組んでいます。市民のみなさまの公共サインに関する意識や意見をうかがい、今後の公共サイン適正化事業に役立てたいと考えています。

問 16. 「公共サイン」に関する取組について、知っていますか。









- 西宮市において取り組んでいる公共サインの適正化の取組の認知状況は、「知っている」が44.2%、「知らない」が53.2%で、「知らない」が10ポイントほど上回っている。
- 年齢（4区分）別にみると、年齢区分が上がるほど「知っている」が多くなり、「知らない」が少なくなっている。
- 西宮市での通算居住年数別に認知状況をみると、居住年数が『3年未満』、『3年以上～6年未満』は、「知らない」の割合が「知っている」の2倍以上となっている。それ以上の年数の回答者では、「知っている」の割合が増え、「知らない」の割合が減り、居住年数が『20年以上』では両者の割合が拮抗している。

(N=1,915)



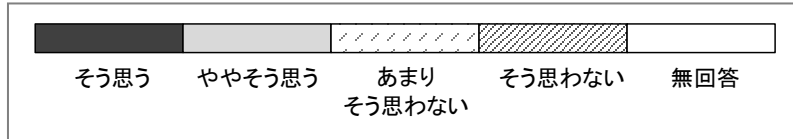


問 17. 「飛び出し注意」サインについてお聞きします。次のⅠ～Ⅳのサインについて、どう思われますか。A～D それぞれに、あなたのお考えに近いもの1つに○をつけてください。

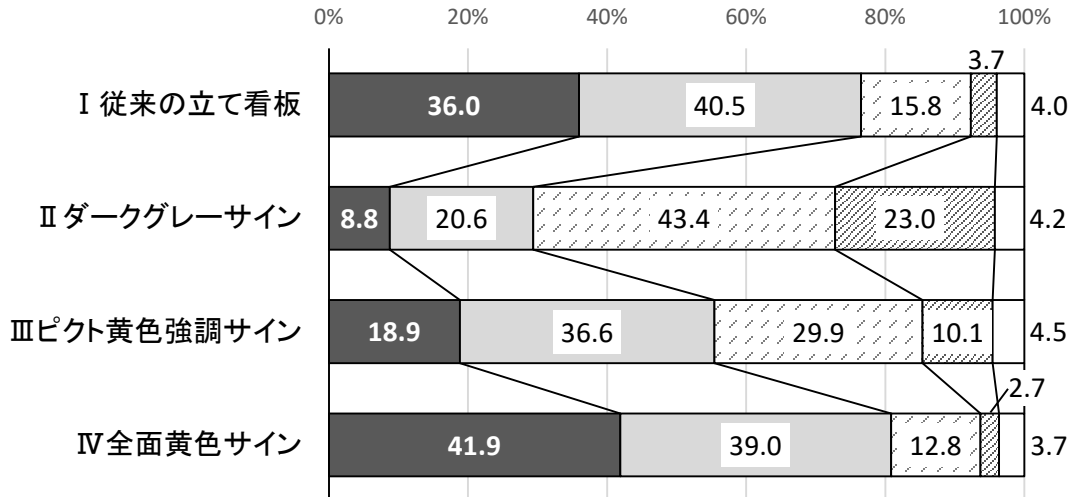
Ⅰ 従来の立て看板		Ⅱ ダークグレーサイン	
近景	遠景	近景	遠景
			
Ⅲ ピクト黄色強調サイン		Ⅳ 全面黄色サイン	
近景	遠景	近景	遠景
			

- Ⅰ～Ⅳのサインについて、上記のようにそれぞれ近景と遠景の写真を掲載し、回答者に対して、「Aサインに気づきやすい」、「B情報がわかりやすい」、「C色彩が街並みと調和している」、「Dデザインが街並みと調和している」の4つ視点から、4段階の評価を求めた。
- Ⅰ～ⅣのサインをA～Dの評価の視点ごとに比較すると、「Aサインに気づきやすい」については、【Ⅰ従来の立て看板】（「そう思う」36.0%、「ややそう思う」40.5%）と【Ⅳ全面黄色サイン】（「そう思う」41.9%、「ややそう思う」39.0%）の評価が高い。
- 「B情報がわかりやすい」については、【Ⅰ従来の立て看板】（「そう思う」36.3%、「ややそう思う」39.5%）、と【Ⅳ全面黄色サイン】（「そう思う」35.0%、「ややそう思う」40.3%）の評価が高い。
- 「C色彩が街並みと調和している」については、【Ⅱダークグレーサイン】（「そう思う」20.4%、「ややそう思う」45.3%）と【Ⅲピクト黄色強調サイン】（「そう思う」17.8%、「ややそう思う」47.3%）の評価が高い。
- 「Dデザインが街並みと調和している」については、【Ⅱダークグレーサイン】（「そう思う」20.3%、「ややそう思う」43.3%）と【Ⅲピクト黄色強調サイン】（「そう思う」18.0%、「ややそう思う」46.4%）の評価が高い。

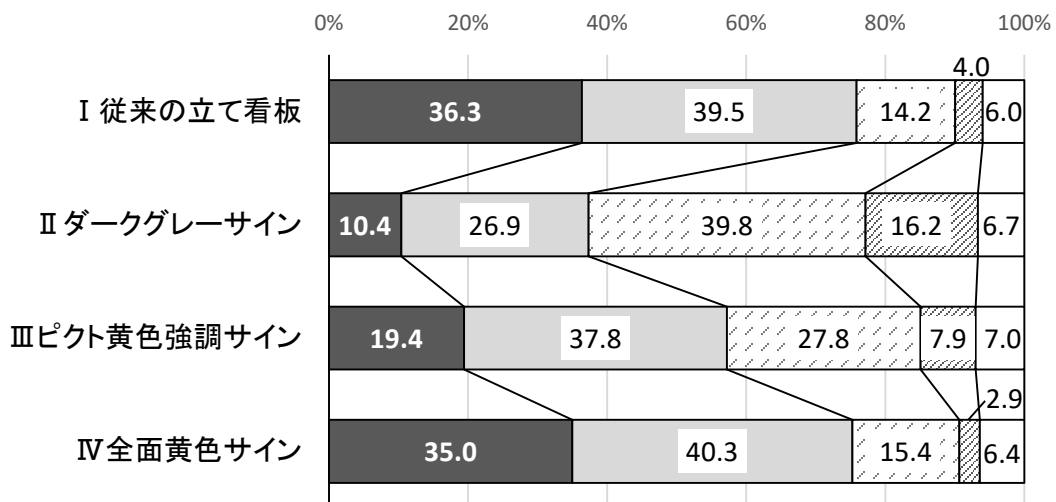
以下のグラフの凡例



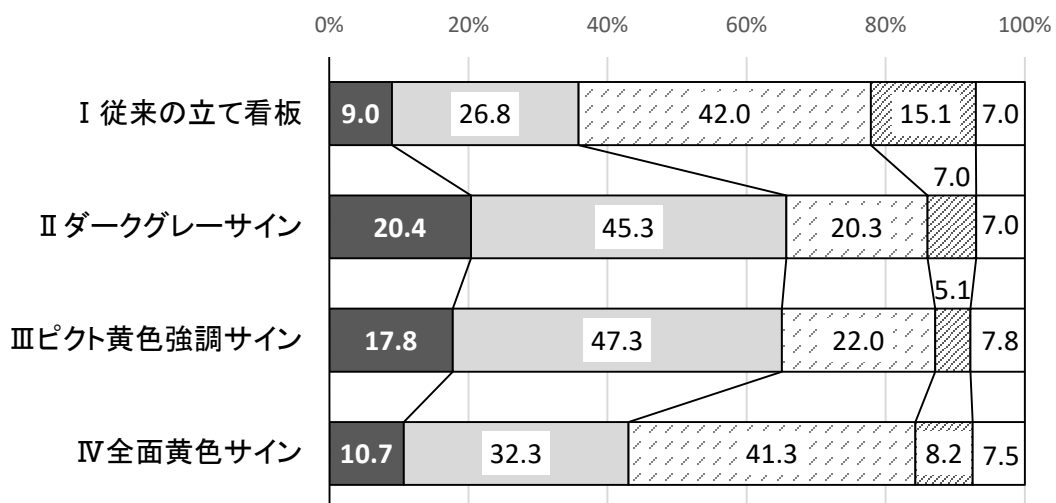
■ A サインに気づきやすい (N=1,915)



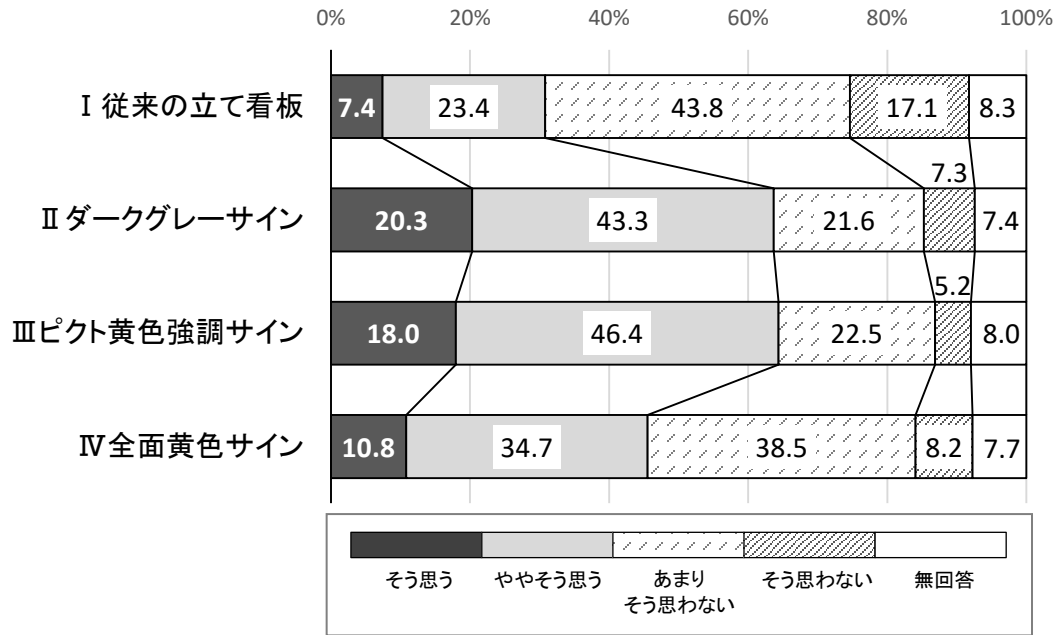
■ B 情報がわかりやすい (N=1,915)



■ C 色彩が街並みと調和している (N=1,915)



■ D デザインが街並みと調和している (N=1,915)



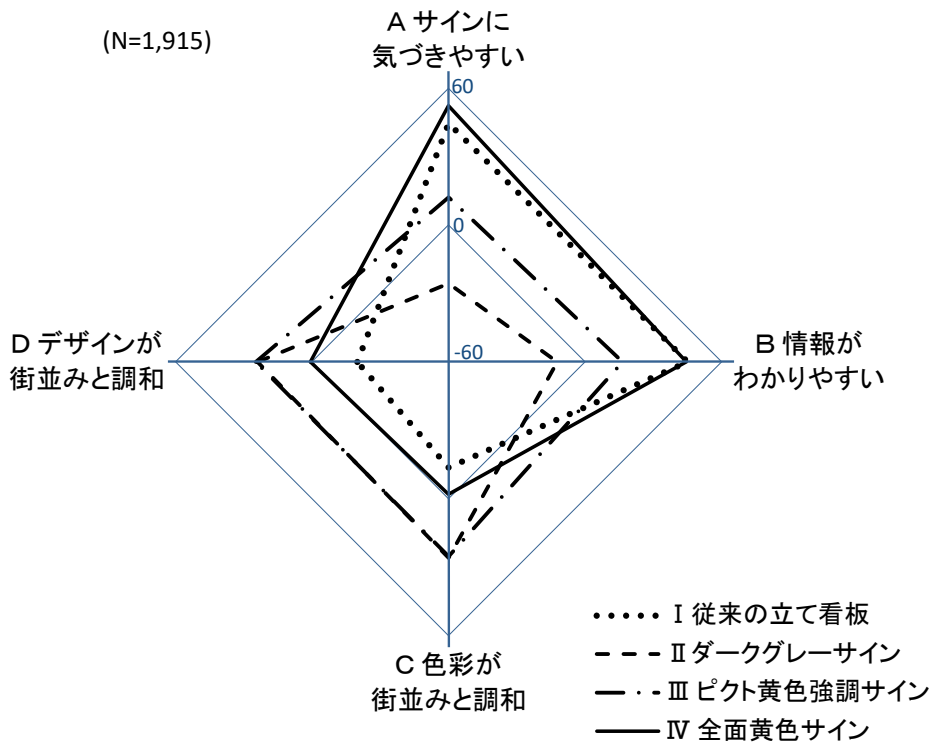
- A～Dの評価を点数化して、各サインを比較すると、【I従来の立て看板】と【IV全面黄色サイン】は、「Aサインに気づきやすい」、「B情報がわかりやすい」の評価点が高く、「C色彩が街並みと調和している」、「Dデザインが街並みと調和している」の評価点が低い。【I従来の立て看板】については、C・Dの評価点がともにマイナスである。
- 【IIダークグレーサイン】は、「C色彩が街並みと調和している」、「Dデザインが街並みと調和している」の評価点が高いが、「Aサインに気づきやすい」、「B情報がわかりやすい」の評価点がマイナスである。
- 【IIIピクト黄色強調サイン】は、「Aサインに気づきやすい」、「B情報がわかりやすい」の評価点が【I】、【IV】に及ばないもののプラスとなっており、また、「C色彩が街並みと調和している」、「Dデザインが街並みと調和している」の評価点も高い。

■ I～IVのサインのA～Dの評価点比較（表）

	I 従来の 立て看板	II ダークグレー サイン	III ピクト黄色 強調サイン	IV 全面黄色 サイン
A サインに 気づきやすい	44.6	-25.6	12.1	52.3
B 情報が わかりやすい	45.1	-12.2	16.5	44.5
C 色彩が街並みと 調和している	-13.7	25.9	25.3	-2.0
D デザインが街並みと 調和している	-19.9	23.9	24.7	0.7

評価の点数化にあたっては、「思う」「思わない」の違いを重視して、以下のように算出している。
算出方法：「そう思う」の割合×1+「ややそう思う」の割合×0.5+「あまりそう思わない」の割合×-0.5+「そう思わない」の割合×-1

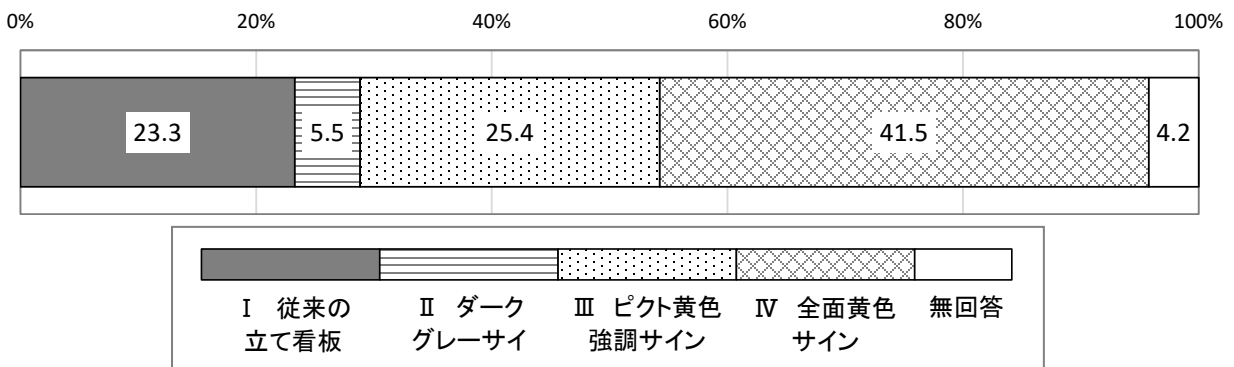
■ I～IVのサインのA～Dの評価点比較（図）



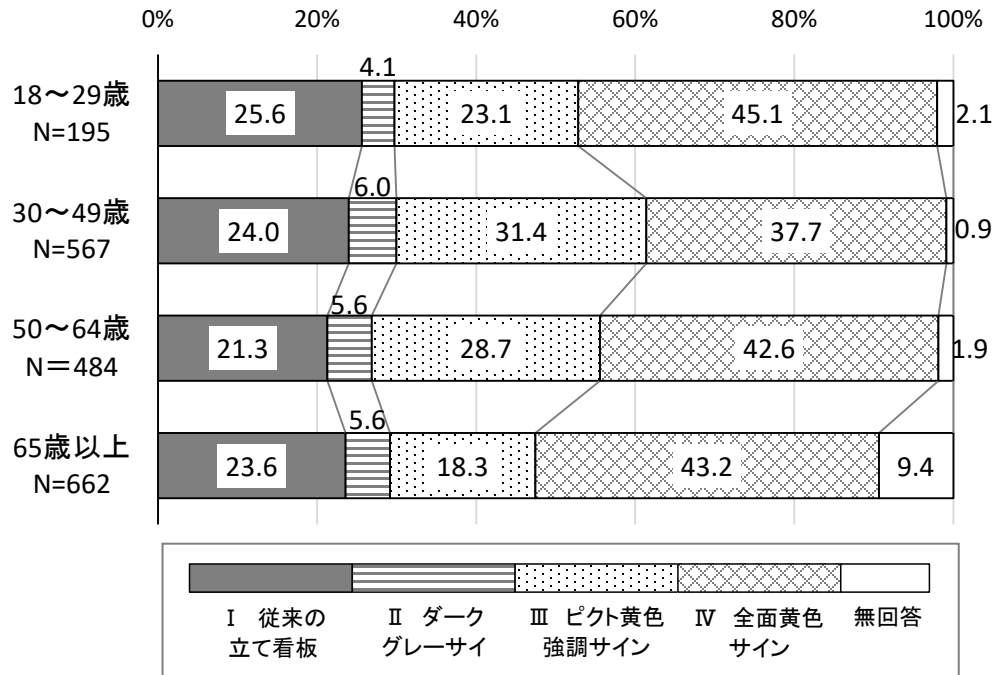
問 18. I～IVのサインのうち、どのサインが良いと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 4つのうち良いと思うサインを1つ選んでもらったところ、【IV全面黄色サイン】が41.5%で最も多く、次いで【Ⅲピクト黄色強調サイン】が25.4%、【I従来の立て看板】が23.3%となっている。
- 年齢（4区分）別にみると、いずれも最も多いのが【IV全面黄色サイン】である。
- 『30～49歳』では、【Ⅲピクト黄色強調サイン】が31.4%と他の年齢区分よりやや多く、【IV全面黄色サイン】との差が6.3ポイントと他の年齢区分より小さい。

(N=1,915)



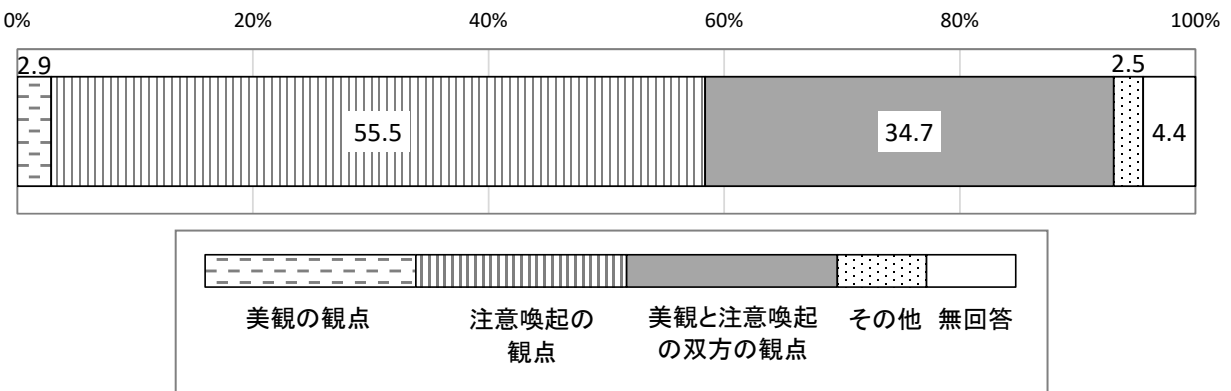
■年齢（4区分）別「良いと思うサイン」



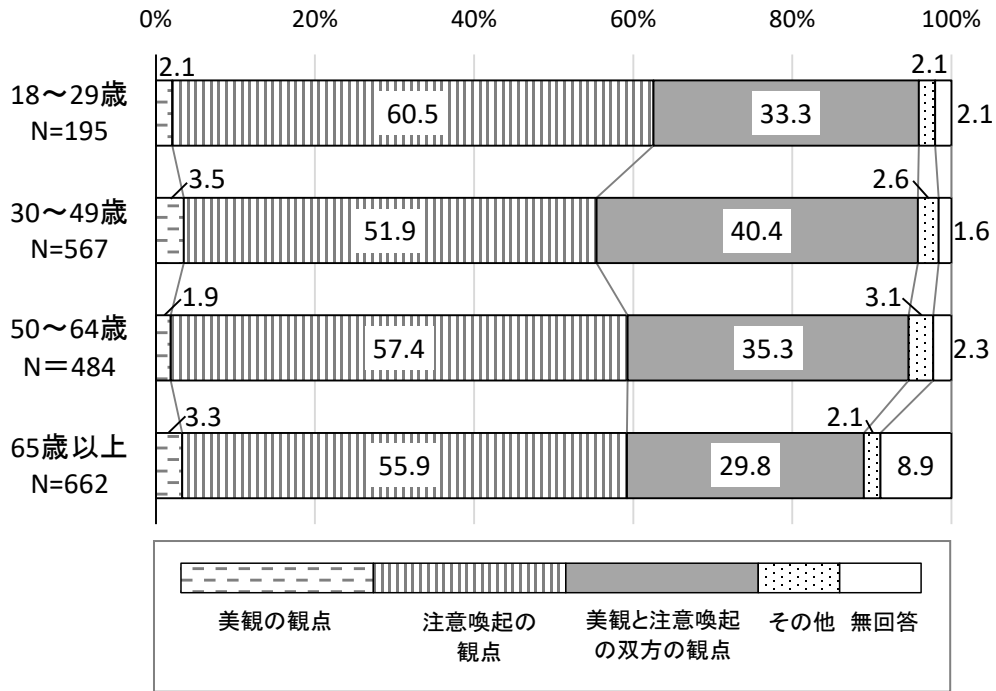
問 19. 問 18 で、サインを選択する際に重視した点は何ですか。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

- サインを選択する際に重視した点は、「注意喚起の観点」が 55.5%と最も多く、次いで「美観と注意喚起の双方の観点」が 34.7%となっている。
- 年齢（4区分）別にみると、いずれも最も多いのが「注意喚起の観点」であり、「18～29 歳」では 60.5%となっている。
- なお、『30～49 歳』では、「美観と注意喚起の双方の観点」が 40.4%で、他の世代よりやや多い。

(N=1,915)

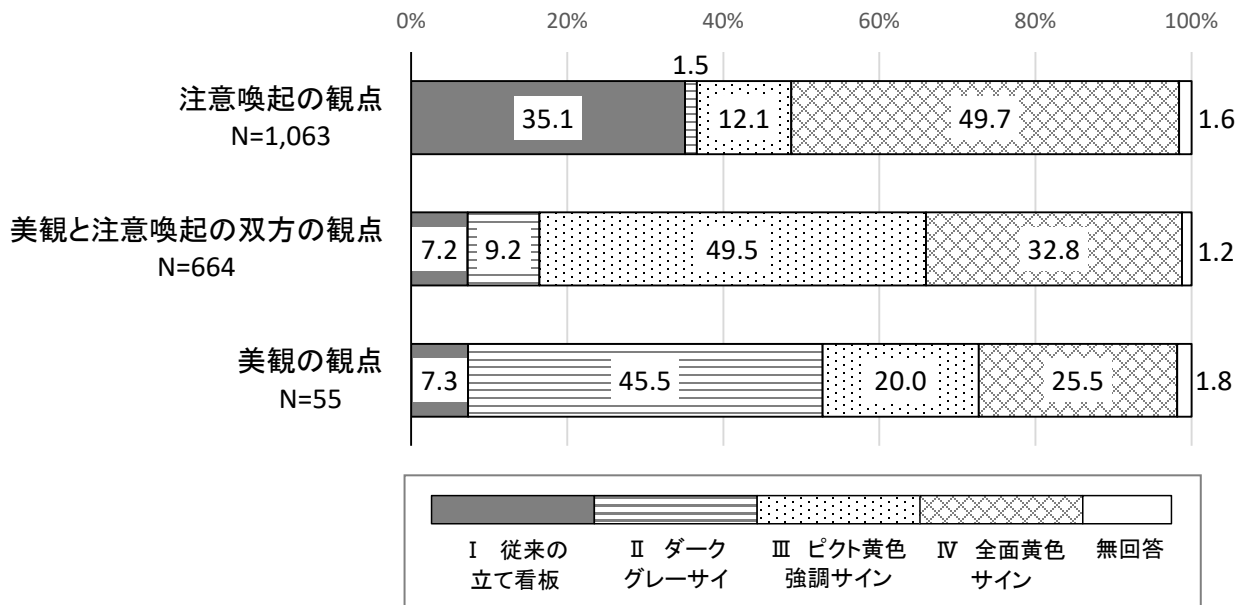


■年齢（4区分）別 サインを選ぶ際に重視した観点



- 重視した観点ごとに選んだサインをみると、「注意喚起の観点」は【Ⅳ全面黄色サイン】が49.7%と最も多い。「美観と注意喚起の双方の観点」は【Ⅲピクト黄色強調サイン】が49.5%と最も多い。「美観の観点」は【Ⅱダークグレーサイン】が45.5%と最も多い。

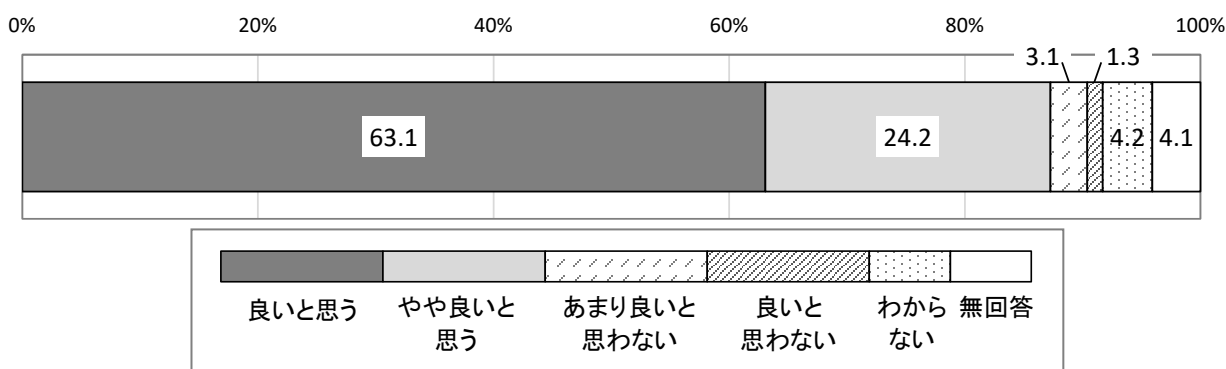
■重視した点別 選んだサイン



問 20. 「公共サイン」に関する取組について、どう思われますか。あなたの考えに近いもの1つに○をつけてください。

- 「公共サイン」に関する取組について、「良いと思う」が63.1%で最も多く、「やや良いと思う」の24.2%と合わせると8割以上がプラスの評価をしている。
- 性別、年齢（4区分）別にみても、「良いと思う」は50%を大きく上回っている。

(N=1,915)



■性別・年齢（4区分）別 公共サインに関する取組の評価

単位：%

		N (人)	良いと思う	やや良い と思う	あまり良い と思わない	良いと 思わない	わからない	無回答
全体		1,915	63.1	24.2	3.1	1.3	4.2	4.1
性別	男性	693	60.3	26.6	3.5	2.0	4.5	3.2
	女性	1,110	64.5	22.9	3.1	0.9	4.1	4.5
年齢 (4区分) 別	18～29歳	195	64.1	26.7	1.5	1.0	5.6	1.0
	30～49歳	567	66.1	24.3	2.6	1.1	4.1	1.8
	50～64歳	484	64.3	23.3	5.0	1.7	3.9	1.9
	65歳以上	662	59.4	23.9	2.7	1.4	4.1	8.6

施策に向けての一言 <公共サインについて>

現在、西宮市では、看板の本来の役割である情報をわかりやすく伝えることや、美観と安全性を逆に損ねてしまうような「公共サインの適正化」について検討を進めている。情報の明晰さや情報量や認知コストだけではなく、街の美観を損ねないデザインであることも含めて、より適正な公共サインのあり方について議論がなされており、今回の調査も、そのような点を明らかにする目的でなされたものである。

その意味で、取り組みを知っているかどうかや（問 16）、取り組みに対する評価（問 20）というよりも評価に関する調査結果を中心に、公共サイン適正化の方向性について検討と考察を進めていくことにしたい。

考察のポイントとなるのは「従来の立て看板（Ⅰ）」と比較して、「ダークグレーサイン（Ⅱ）」、「ピクト黄色強調サイン（Ⅲ）」、「全面黄色サイン（Ⅳ）」のそれぞれが、どのような利点を持っているかということである。そこで問 17 の結果を用いた評価点の分析結果を確認する。

まず「A: 気づきやすさ」や「B: 情報のわかりやすさ」でいうと、従来の立て看板と全面黄色サインが高評価である。逆にダークグレーサインは低評価である。これらの評価項目から見ると、ダークグレーサインは好ましいと思われていない。ピクト黄色強調サインはやや肯定的に評価されているが、先に述べた 2 つほどではない。

その一方で、「C: 色彩が街並みと調和している」や「D: デザインが街並みと調和している」を見ると、ダークグレーサインやピクト黄色強調サインが高評価であり、従来の立て看板は低評価である。全面黄色サインは 0 に近い点数である。肯定的でも否定的でもない、ということである。

以上の結果より、どの評価項目でもマイナスになっていないピクト黄色強調サイン、もしくは、サインに気づきやすく、かつ、景観などを著しく損なうわけでない全面黄色サインが、より適正な公共サインだと考えられる。実際にどの看板がもっとも良いと思うかを調査した結果を見ても（問 18）、全面黄色が最も選択されており（41.5%）、次いでピクト黄色強調サインとなっている（25.4%）。評価項目を得点化した結果と総合的な結果である。

従来の立て看板は美観を損ねる、ダークグレーサインは気づきにくいという欠点があると認識されている。西宮市民が注意喚起をより重視する点を踏まえるなら（問 19）、全面黄色サインの方がピクト黄色強調サインよりも望ましいといえる。しかし、全面黄色サインはやや美観を損ねるという評価になっている。どの点から見ても肯定的な評価を得ているのはピクト黄色強調サインである。したがって安全性と美観の両者を重視する場合は、ピクト黄色強調サインが望ましい公共サインということになる。

（関西学院大学 善教将大）